



# たたら

第 10 号  
島根学習センター内  
島根同窓会

発行者 竹下靖彦  
2018年1月発行

<http://oushimaned.main.jp>  
E-mail [info@oushianed.main.jp](mailto:info@oushianed.main.jp)



松江城天守に水のアーチ (写真提供松江市 森 勝男氏)

松江市の消防出初式が新年早々6日(土)に、国宝松江城本丸と内堀で放水演技が披露された。

松江城本丸での演技は、城山公園自衛消防隊の隊員と市内の消防団員が6カ所から放水した。放水が始まると虹のアーチが現れ、詰めかけた観光客や市民などの見物客から歓声が上がった。

出初式の起源は、江戸時代前期万治2年(1659)江戸の定火消しが、上野の東照宮で行ったのが始まりと言われています。

出初式の目的は、地域の人々の大掛かりなイベントを通して広報を行い、火災予防の意識を持ってもらうことでした。

明けまして

おめでとうございます

旧年中は大変お世話になり

誠にありがとうございました。

本年も相変わらずよろしく

お願い申し上げます。

二〇一八年 元旦

役員一同

## 今年も皆さまと共に一歩前に

会長 竹下靖彦



新しい年を迎えました。島根同窓会員の皆さまにはお変わりございませんか？

平成29年も大変お世話になりました。本誌面をお借りし

て厚くお礼を申し上げます。

さて、島根同窓会も早いもので、本年は設立6年目を迎えることとなります。顧みますと設立後は取組む課題が数多くあり、あれも、これもと次々と事業の企画と準備に追い回され、唯々慌しく日々が過ぎる活動状態でありました。

昨年度は、5年目を迎えての活動でありましたので、島根同窓会としての存在感を放送大学のみなならず、地域社会へ如何にアピールできる活動に取り組めるのかを重点にして、更に一歩前にどう進むかでありました。

また、組織整備として、今日情報通信技術（ICT）が日常生活の隅々まで浸透し、それなくしてはもう社会が成り立たない基盤となっていて、如何に必要とする情報をリアルタイムで入手できるかについて、個人情報保護を厳守しての取り組みを役員会にて議論を行いました。

### 会員用メーリングリストの開設

このために、いち早く取り組んだのがホームページの開設で、活動報告と当面に取り組む活動を展開することでした。続いて独自のメールアドレス、広報部会、役員会メーリングリストを開設しましたが、本年は会員用メーリングリストに取り組めます。

対象はパソコンやスマートフォン、ガラケー端末のメールアドレスをお持ちのすべての方です。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

具体的な手続き方法は、同封の案内チラシにてご確認ください。

昨年の大きな出来事は色々ありましたが、私の個人的な関心事は①7月の九州北部豪雨災害、②7月の人類史上初めての核兵器の使用や威嚇などを違法化した、核兵器禁止条約が122か国（国連加盟国で3分2）の賛成多数で採択されたこと、③大義なき衆議院解散選挙です。

九州北部豪雨災害では、45万人に避難指示、豪雨による死者34人（7月17日）となり、現在も復旧には程遠い状況で、寒さの中での暮らしが続いています。

12月4日開催された「国連総会本会議において先の核兵器禁止条約の採決を歓迎する一連の決議案を採択され、総会決議に禁止条約の採択が明記されるのは初めてのこと」と報道されたことです。ところが日本政府は、米国の核の傘にあり、核保有国とともに歩調を揃えてこの決議案に反対し、世界で唯一の被爆国である日本政府としての態度は如何なものでしょうか？

12月10日にノルウェーの首都オスロで開かれた、ICANのノーベル平和賞授賞式で日本被団協代表、被爆者サーロー節子さんの講演要旨を報道で目にしたが、「核保有国の政府や核の傘の下で共犯者となっている国々に政府に言いたい。私たちの証言を聞き、私たちの警告を心に留めよ。世界の全ての国の大統領、首相に対し、条約に参加し、核による絶滅の脅威を永遠に除去するよう懇願する。」と訴えたことです。

一方、大義なき衆議院解散では、安倍内閣による憲法改悪、国会私物化により、国民の世論と運動に追い詰められ、臨時国会での冒頭解散です。

衆議院選挙結果は、一見すると自民党は比例では33%で61%の議席を占めたが、大政党有利の小選挙区制度によるもので、民意を反映したことにはならないと思う次第です。

さらに、自民党勝利に貢献したのが小池新党の「希望の党」であり、盛り上がりつつある市民と野党の共闘を破壊する分断策で、まさに自民党の補完政党としての役割でした。野党が候補者の一本化をしていたら、選挙結果は様変わりをしていただいでしょうに！

## 放送大学新時代と 学習センターの情報化

島根学習センター所長  
佐々 有生



新年明けましておめでとうございます。

1983(昭和58)年4月、放送大学は「いつでも、どこでも、だれでも」学べる大学をめざして設置され、本年、開学35年目を迎えます。設立からの30年を一世代とし、第二世代の現在は、「Vision 17 ー放送大学新時代ー」を標題に掲げ、これまでの誇るべき伝統と実績をさらに発展させる段階に入っています。

第一世代の30年間は、インターネット等の情報技術の進歩、地方の過疎化、高齢化など、社会情勢が大きく変化し、放送大学を取り巻く環境も一変しました。学習センターでも、そうした変化に対応すべく、「放送大学の新時代」への「機能強化」が迫られています。

具体的には、学習センターにおけるWi-Fi整備等により、DVD・CDによる放送教材の視聴からインターネット視聴用PC、タブレットを利用した視聴に順次切り替わります。島根学習センターは、次年度より図書・視聴室にタブレット6台を設置する予定です。学ぶ立場から見た大きな改善点は、すぐには無理でも、学生の皆さんのパソコンの持ち込み・使用ができるようになることです。また、視聴用DVD・CDの室外貸出は、学習センターでは行わず、本部一元化になります。

### パソコン活用セミナーを開催中

島根学習センターでは、すでにパソコン活用

セミナーを開設し、インターネット視聴用端末利用方法だけでなく、放送大学にかかわるインターネット活用の全般について、体験的に学んでいただくようにしています。また、客員の先生によるパソコン講座では、「初歩からのOffice」が初心者でもある程度使えるように指導していただいています。学生の皆さんには、こうしたセミナー等をさらに活用していただければ嬉しく思います。

### 学ぶ側に立った支援等の充実へ

一方で、「パソコンが使えない学生は、これからだんだん学べなくなるということですかね?」といった声を聞きます。真摯に学ばれている学生の皆さんの声は、胸に響きます。私たちを取り巻くネット環境等の急激な変化にあつて、インターネット視聴用回線(Wi-Fi)の整備だけでなく、またそれ以上に、その活用方法等は、学ぶ側に立った支援等の充実が求められると考えています。

次年度から「図書・視聴室」の環境が少しずつ変わっていきます。一人でも多くの学生の皆さんに来所いただけるように、より魅力ある島根学習センターをめざして取り組みたいと思います。

本年もどうかよろしく申し上げます。



4月から撤去される4階視聴覚室の貸出用CD類



## 平成29年度 第1学期 卒業を祝う会を開催しました



1学期卒業を祝う会

平成29年9月24(日)、平成29年度第一学期学位記授与式終了後、島根学習センター4階第二講義室において、第一学期卒業生を祝う会を開催しました。

祝う会は島根同窓会が主催し、島根学習センターが共催して行われたものです。今回の出席者は6名で初めての卒業生が4名、継続入学卒業生が2名参加され、何時より初めての卒業生の方が多く、新鮮さも手伝って開催することができました。

お祝いには佐々島根学習センター所長、高山草二、久保恭男客員教授の先生方にも参加していただき、緊張から解放された卒業生の晴れやかな表情で、どなたも華やかな雰囲気の中で行われました。

初めに、竹下会長から、卒業生の努力や支えていただいた方への感謝を込めて、お祝いの挨拶がありました。また、最近のニュースを例に放送大学の認知度アップの必要性についての話があり、創立5年を前にして念願の100名超の会員登録が実現でき、更なる飛躍に向けて是非同窓会への加入の呼びかけがありました。

恒例により、参加者の皆さんと食事をとったあと、卒業生の方々からひと言ずつ苦労話や今後の抱負などを話して頂きました。

卒業生の方からは4回目5回目の卒業に至るまでの過程を語る方や、転勤で郷里の島根で卒業できた喜び、大学卒の学歴が欲しくて迷わず入学された方、苦手の理系で苦労されたこと、以

前京都の大学の通信に入学したが、スクーリングは京都まで出かけることと、阪神淡路大地震などで退学したが、学ぶことへの強い気持ちがあり、やっと放送大学に出会い、心理と教育コースを受けたが、単に心の問題だけでなく科学であることに気づいた。入学はしたが老いを感じて少しでも早く卒業したいと、ハードな履修を続け達成感に浸っている。テスト時や面接授業などで、会長から励ましの声を掛けられ、勇気づけられたなど、多くの感想を語って頂いた。

祝う会には遠路浜田市からの卒業生も参加され、地域で小・中学生たちに家庭教師を始めたが、放送大学での履修経験が役立っていると地域での体験を話され、卒業生が地域社会で果たす活動に参加者一同共感しました。

続いて、出席頂いた客員教授のみなさまからも、お祝いの言葉や担当されている専門分野の紹介などもして頂きました。(文責:竹下靖彦)

\*\*\*\*\*

## 平成29年度 第1学期 学位記授与式が行われました



学位記授与者記念写真

平成29年度第1学期学位記授与式が、9月24日(日)午前11時から島根学習センター3階第一講義室で開催されました。第1学期は教養学部23名が卒業され8名が出席された。また、初めての卒業は18名でした。最初に佐々島根学習センター所長より学位記が卒業生おひとりお一人に手渡され会場の出席者とともにその栄誉を讃えました。佐々島根学習センター所長から式辞があり、まず、第1学期を振り返ると個人的には6月の公開授業「たたら製鉄をめぐる科学と文化」が心に残っ

た。特に第2日目の奥出雲町の棚田を見学したとき、さわやかな青空の下、ごくごく自然の風景を映し出していた。たたら製鉄はよく砂鉄の採取などで自然を壊したのではないかといわれるが、棚田に姿を変え、永続的に産業を育み、どこの地域よりも美しい景観を作り上げ、生活を豊かにした。

以前、ある少女が作文の中で「夕やけを見てあまり美しいと思わなかったけれども、文字を覚えて始めて本当に美しいと思うようになった」と記していた。人は生きる上で、なぜ学ぶのか、なぜ学ばねばならないのか、学びを通して自らの立ち位置が分かります。今日、目的の一つである節目を迎えられました。人は学びながら生きる存在です。家族、同僚、学友に支えられ、合わせて卒業という節目に次の学びのステップを迎えて欲しいと励まされました。

### お母さんの証書が一番だね



続いて来賓として足立前学習センター長と竹下同窓会会長から祝辞がありました。足立先生は「学位記」にまつわる話に続いて、次のエピソードを紹介された。

ある4人家族がお母さんの卒業のお祝いの会を開いたとき、娘さんの提案で家族3人の卒業証書を並べたとき、娘さんから「お母さんの卒業証書が一番値打ちがある」と言われたとき、涙が止まらなかったそうです。卒業証書には長い道の中でひとり一人の物語が込められているので大切にしてくださいと述べられました。

### 日頃からの準備が大切



竹下会長は卒業生に経験と知識を生かして実社会でも地域においても、少なくともリーダー的存在になっていただきたい述べ、映画監督で脚本家でも

ある河瀬直美の「忘れられていいこと、忘れては

ならないこと、忘れなければならないこと」をきちんと判断する力、また文化人類学の梅棹忠夫の「請われれば差し舞える人物になれ」とのことばを引用し、日頃からの準備の大切さを述べられました。

### 面接授業では楽しく受講できました



在学生を代表して生活と福祉コースの仙田悦子さんが送辞を述べられた。先輩の皆様は放送大学の特徴を活かし、家事や子育てを両立させながらも単位を積み重ねて志を貫かれました。また、面接授業のグループワークでは、発表のとき、経験と知識によって緊張していた顔を笑顔に変えていただいたことなどの感謝と思い出を述べられました。

### 学生同士切磋琢磨して良い関係へ



卒業生を代表して生活と福祉コース中本真由さんが答辞を述べられた。希望と不安で胸がいっぱいであったが、放送大学の授業はラジオやTV、ネットを活用して繰り返しながら一人ひとりのペースで学ぶことができました。談話室では普段は話すことがなくとも、切磋琢磨して良い関係を築くことができた。面接授業は鳥取から通っていたが、病気がちだったので最後まで授業を受けることができるか心配でしたが、先生方の配慮によって終えることができました。人生では学ぶことが多くあり、多くの困難が立ちはだかると思いますが、学ぶ楽しさに乗り換えていきたいと述べられました。続いて客員教員から卒業生お一人おひとりに花束を贈呈され会場を退場される時大きな拍手でご卒業を祝福しました。(小汀政徳・記)



**卒業生の声(平成28年度2学期)****放送大学を卒業して**

出雲市 吾郷宰子



忘れもしません、3月25日、東京渋谷のNHKホールに初めて立ち、学位記授与式に参列し、無事に放送大学を卒業することができました。

その時の感動と言ったらとても言葉に表すことなどできない程の素晴らしいものでした。今でもずっと心が満たされ、幸せな気持ちで一杯です。思い切って東京まで出かけて本当に良かった!と思いました。

中でも一番印象的だったことは、北海道から来ておられた99歳の男性の方で、三度目の卒業に向かって努力しておられ、特別表彰を受けられたことでした。私はそのお姿と鳴りやまぬ拍手と共に、目頭が熱くなりました。そのお方に比べると、私など足元にも及びません。

しかし、私も卒業に向かっての熱い思いは負けないと自負しています。私は10年もの間パート保育士として働きながら、少しずつ単位を取ってきました。でも辛いと思ったことは一度もありませんでした。それどころか却って目標に向って行く自分が生きいきしたり、楽しみや張り合いが出来て、本当に有意義な学生生活を送ることができました。

**今は休憩中ですが忘れ物をした思い**

今は休憩中です。何か忘れ物をしているような、心の中にぽっかり穴が開いたような気持ちになったりすることがありますが、暫くの間、家事やボランティアに精を出そうと考えています。また、諦めずに一歩ずつ進んで行けば、夢が叶うことをこの度確信しましたので、今後また新しいことにも挑戦したいです。

今、放送大学で学んでいる方、これから始める方、是非とも卒業を目指して頑張ってください。

して周りの方々に放送大学について、その良さを知ってもらい、素晴らしさを伝えて行き、もっともっと沢山の方に学んで欲しいと思います。

それからは是非島根同窓会にも入っていただき、島根学習センターと共に益々栄えて行きますように願っております。

※第9号に掲載すべきところ、編集部にて失念してしまいました。吾郷様にはお詫び致します。

1学期の卒業生全員に原稿執筆のお願いしたところ、3人の卒業生からご寄稿頂きました。

**卒業生の声(平成29年度1学期)****放送大学で  
余暇の善用と生涯学習**

松江市 本田 章



平成13年3月、60歳定年で42年間の会社生活を終え、毎日が日曜日の生活となりましたが、カラオケダメ、ゴルフダメ、クルマダメ等ダメだらけの私にはやるべきことが見つかりませんでした。

そうこうしているうちに、放送大学の文字が目飛び込み、商業高校卒の学歴しかない私が大学卒の資格を得られる絶好の方法だと考え、定年と入れ替わり放送大学に入学した次第です。

なんとか4年で卒業できましたが、4年間の勉強を通じて勉強の面白さ、楽しさを学びこのまま卒業してしまうのはもったいないと気づき、再入学の手続きをするとともに、以後も卒業と入学を繰り返す、命ある限り放送大学の学生として、余暇の善用とともに生涯学習に励む決心をした次第です。

入学、卒業の経緯は下記の通りですが、最終の情報コースについては、文系の私は理系が大の苦手で、スマホ、インターネット、パソコン等が使えない機械オンチですので最大の難関です。

しかも、現在76歳の後期高齢者であり、体が何時まで持つか分からない状況ですが、最後の



力を振り絞って挑戦するつもりです。

### (入学、卒業の状況)

#### ①「社会と経済」コース

平成13年4月入 17年3月卒 在籍4年

#### ②「人間の探求」コース

平成17年4月入 19年3月卒 在籍2年

#### ③「生活と福祉」コース

平成19年4月入 21年3月卒 在籍2年

#### ④「自然と環境」コース

平成21年4月入 26年9月卒 在籍5年半

#### ⑤「心理と教育」コース

平成26年10月入 29年9月卒 在籍3年

#### ⑥「情報」コース 平成29年10月入学

### 卒業生の声(平成29年度1学期)

## 「生きることは学ぶこと」 その中でこそ自己を磨ける

松江市 安部保江



島根学習センター開校以来20年、漸く4回目の卒業をすることができました。何回、入学や卒業を繰り返しても、これでいいとは思えなく

て、かと言って私の場合は何かの資格が欲しいわけでもなく、ただ学びの場にいることが好きだということなのです。学ぶことが趣味だと言えば、学びたくても学ぶことのできない人も沢山いるのに、高い税金を使っていい気になるなとお叱りを受けるかも知れませんが、この放送大学にいて、83歳の私はどうにか元気で楽しい毎日を過ごせています。

2001年(平成13)2学期、放送大学本部からの放送大学「教養学部」大学案内の冊子に、在学生からのメッセージとして、私の書いたものも載りました。タイトルは「生きることは学ぶこと」その中に自己を磨くためとか何とか、私は偉そうなことを書いていました。果たして今どうでしょう。まったく自信のない年を重ねたような

気がしたり、昨日の自分よりは今日の自分が僅かでも・・・進歩していると思ったりいろいろです。

こうして飽きることなく大学生活を続けることができるのは、素晴らしい先生方、事務局の皆さま、歳の差などは関係なく学び合う同志に囲まれているからです。それと共に夫の理解と応援のお蔭なので感謝の他はありません。

元気である限り学びたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

### 卒業生の声(平成29年度1学期)

## 5回目の学位記授与式を終えて

松江市 竹下孝子



月日の経つのは早いもので、平成12年の後期に入学し17年の歳月が過ぎて行きました。

定年まで37年間看護師として働き続けた後、娘から放送大

学の存在を知らされました。若い時学びたい希望を強く持っていましたが、それより社会に出ることが求められ、思い通りにはいきませんでした。学びたいという強い思いが今に続く原点かと考えています。

当時初代センター長は錦織先生で、全科生への入学「生活と福祉」コースへの手続き等でお世話になりました。

入学時は、制度のことも良く分からないまま、とにかく学びたいとがむしゃらに面接授業を受け、科目選びもネーミングに惹かれ、興味を持つものに飛びついていました。卒業を目指すわけでもなく、ずるずると7年が経過し条件を満たし卒業しました。

それで終わりかと思いきや、ある日卒業された先輩とセンター窓口でお逢いし、どうしてかと尋ねると、再入学をするとのことでびっくりしました。卒業して全科履修生に再入学すると、コースの第3年次入学(学士入学)になることを知り、早速「人間と文化」コースに再入学しま

した。その後続いて「自然と環境」、「社会と産業」、「情報」と学び卒業しました。

後期高齢者となり、これからも学び続けられる環境(地理的、健康状態、経済的、家庭状況等々)に恵まれ、感謝の限りです。平素は意識してはいませんが「学ぶこと」が「生きる力」につながっているのではないかと思います。

常々何かお役に立ちたいという思いを持っています。そのためには健康を維持し、今後もこの思いと日常生活を大切にしながら継続して行く考えです。最後のコース「心理と教育」を目指し、持てる力を発揮して頑張ります。

\*\*\*\*\*

### 第3回

## 中部地域会員・学生交流会を開催



大田市の石見銀山遺跡は7月2日に世界遺産登録10周年を迎えました。同窓会中部地域の今年度の会員・学生交流行事として、9月2日(土)に大田市の石見銀山資料館で開催されている世界遺産登録10周年記念「石見銀山展—銀が世界を変えた—」を見学し、その後食事会と交流会を開催した。

当日は、集合場所の石見銀山資料館付近は生憎の雨模様でしたが、中部地域のみならず、東部地域や鳥取西部地域から会員や学生が参加した。

「石見銀山展」は石見銀山資料館と出雲市大社町にある古代出雲歴史博物館の2つの館が同時開催の形をとって、古代出雲歴史博物館では前半部の「銀でつながる世界」を主題として、大航海時代における石見銀山の膨大な銀が世界

の経済や文化を結び付け、日本国内に空前の経済発展と文化の繁栄をもたらしたことを紹介している。

展示内容は第1章：銀が世界を丸くした。第2章：富の山セロ・リコー世界遺産、ボトシー銀山一、第3章：銀の山—世界遺産石見銀山一、第4章：シルバーラッシュと桃山ルネッサンスで構成されていた。

石見銀山資料館では石見銀山展の後半部を担い、「世界とつながる日本」を主題として、石見銀山の発見を契機に各地で鉱山の開発ラッシュが起こり、新たな技術や文化、学問を生み出していく原動力となったことを、第5章：鉱山王国、第6章：外国船の来航、第7章：和洋混交、第8章：徳川の平和—大江戸博覧会—と、石見銀山が江戸日本の確立に果たした役割を紹介していた。その中で望遠鏡や「漂着外国人図」などの展示が眼を惹いた。

### 町並み散策と名物パン屋で買い物

石見銀山資料館での見学を終えて外に出ると、すでに雨はすっかり上がっていて、ここで記念写真を撮った後、昼食会場である「Café 住留(ジュール)」に向け、大森地区の町並み散策を兼ねて向かった。途中のドイツパン店で買い物や休憩をしながら、目指すCafé 住留(ジュール)に到着した。昼食会場は古民家を改造した造りで、創作料理風な昼食を頂いた。



食事が済むと安井理事の進行により主題である「会員・学生交流会」に移り、竹下会長から次のような挨拶があった。同窓会の設立時から激論があった社会貢献に本格的に取り組みたい。そのために同窓会の存在をアピールするため、幟旗と腕章を作成し大森の町並み散策に掲げて歩



いたころ、商店の中から「あ～放送大学だ！」と反応があったことが報告された。

当面の活動は、島根県が支援して山陰中央新報が参加を募集している森林保全の植林ボランティアに学生と参加予定である。会員・学生支援として新たに英語力を高めるため、来年度より「英語塾」を客員教授の協力で立ち上げを予定していて、目標は大学院入試に役立つレベルとしたい。

9月24日(日)には第1学期学位授与式と同窓会主催の卒業を祝う会、2学期入学生のつどい、茶話会を開催。11月には第2回西部地域会員・学生交流会を予定、来年2月には卒業研究・修士論文発表会が予定されているのでご参加下さいと呼びかけた。

### 龍源寺間歩の洞窟を見学

参加された道前事務長より、センターが入居しているスティックビルの3階に「放送大学」の横断幕を設置し、外部から目立つようになった。さらに市内バス車内での天神町バス停付近の案内放送で大学の案内、電柱に進路を示す矢印のプレート新たに設置したなどが報告された。

交流会は午後2時の閉会し、希望者による龍源寺間歩の見学に向った。私は2009年2月の面接授業以来となるが、石室山羅漢寺、五百羅漢などを再訪した後、大田市のマスコットキャラクター“らとちゃん”由来の「石見銀山らとちゃんバス」を利用して帰路に就いた。(記：小汀)



龍源寺間歩行動入口にて

## 第2回

### 西部地域会員・学生交流会を開催



第2回交流会風景

同窓会では、総会方針に掲げている地域別会員・学生交流会を継続して開催してきていますが、今回は西部地域の益田市立図書館に於いて開催しました。交流会には竹下会長と役員とともに、学習センター佐々所長の参加を得て初めて開催しました。

交流会に先立ち、学習センターと同窓会共催による公開講演会を開き、演題は「身近な記憶の心理」で講師は高山草二客員教授でした。会場の市立図書館2階視聴覚室には会員、学生、市民合わせた27の方が参加し盛況でした。

当日の交流会についての概要を報告します。

**竹下会長**：今回の交流会は益田地域で初めての開催となり、佐々所長も皆さんと懇談したいとのことで、参加をされています。会場の都合にて短時間となりますが、忌憚のない意見交換をしたいと思います。同窓会から私を含めて役員が参加をしています。佐々所長よりご挨拶を頂きます。

**佐々所長**：佐々です。所長として4年目になります。初めは状況がわからなかったが、4年目から中山間地や西部地区へ出かけるようにと、意識は持っていましたが、なかなか足が運べなくて大変失礼をしています。今益田で12の方が島根学習センターへ所属されていると思いますが、それ以外にも山口と広島に所属されている方がおられると思います。取り敢えず益田コーナーの環境も十分ではないと聞いています

ので、来年度に向けて、環境改善をしていきたいと考えています。

**竹下会長**：自己紹介も含めてご発言下さい。

○浜田市から来ました。現在再入学して「社会と産業」コースで履修しています。さらに心理学を学んで、認定心理士の申請を出したいと思っています。

○益田からきました。卒業して2年位になります。心理学士の認定書の単位が揃っているはずですが、まだ申請を出していません。卒業してから行こうと思っていましたが、先ほどの講演で先生が勉強をするとボケない。学校を離れてテストを受けなくなってから、ボケが始まったのかも知れません。

益田からは特急でも2時間半、車で行くと4時間位かかるため、結局は山口や広島へ出かけました。竹下会長に再入学を勧められていますが、まだ再入学していません。

○津和野から来ました。平成11年4月に入学し、6年で卒業する予定でしたが、平成16年9月に卒業しました。専攻は「社会と経済」でした。スティックビルへ面接授業と単位認定試験で通いました。さらに面接授業は山口学習センターへも行きました。面接単位の3分の1くらいは山口へ行きました。

放送大学を知ったのは、社会教育担当の先生から浜田市の「いわみーる」内にコーナーが出来るので、近くで勉強できるからと宣伝され、入学のお願いをされました。

**佐々所長**：本日の公開講演会と銘打っていながら、実は放送大学を知ってもらうという側面もあって開催しています。

○あの頃放送大学は、文部省と総務省と郵政省で作ったリカレント教育でした。

**佐々所長**：中心的には総務省と文科省ですが、本日の公開講演会にご当地のひとまるケーブルTVが取材に来ていましたが、去年からのTVを見てもらうと、私がコマーシャルに出ているのを流しています。積極的にケーブルテレビと連携をして行こうと思っていますが、放送大学自

体がもっとケーブルテレビと連携した方がいいと思います。

現在インターネットが普及する時代になって、学習センターもWi-Fiができ、学生さんのパソコンで学べるようになりましたので、テレビ・ラジオよりそちらの方が普及するようになり、学習センターの役割も変わりつつあります。○私が学習していた時は、スカパーが映らない時でした。ラジオはあったのですが、ビデオテープと録音教材が必要でした。そこでスカパーを録画して学習しました。そのあと町でCATVをするようになって、初めはテレビ受信するだけでしたが、その中に放送大学を入れて欲しいとの要望を出して見れるようになった。

○学習センターは学生の交流の場所と思っています。ところが近頃は個人情報でお友達というか、学生同士の交流会をしたくても連絡もとれない。昔はそういうこともある程度できたし、いわみーるでも行っていました。しかし卒業した後の活動で連絡を取りたいが出来ない。

面接授業で松江に行った時に少し顔見知りと話をしたりする程度です。でも松江まで行くのは遠いので、それもだんだん億劫になる。松江では土曜日におしゃべり会があるが、現在西部では衰退しています。以前はおしゃべり会には6人くらいは集まっていた。

少しでも何かで集まるような取り組みをして欲しい。新しい生徒さんは分からないし交流もない。説明会にはなるべく顔を出しているが、その中から何人が入学したのか分からないので、そのままになっている。なんとか西部地域での交流会を開いて欲しい。センターから出かけた方が集まりやすい。またいわみーるは平日しか使えないため、働いている人は土日しか集まれない。結局のところ集まる場所がない状況です。

卒業した人は来ない。在校生と卒業生の両方が集まれたほうが良い。それは先輩からアドバイスを受けることができる。私は広島で試験に行っているが、そちらの方が情報が得られる。

冬場は交通がストップするので、松江には行き難い。特に試験の時期はリスクが大きい。

○現在放送大学と単位互換協定をとっている大学がありますが、家内の妹も以前島大の教員をしまして、放送大学の方がむしろ難しいと言っていましたね。

**佐々所長**：テストだけで判定しますので、そうですね。

○今の学生数はどうですか？目標にされている数字はありますか？

**佐々所長**：減少傾向でしたがこの二学期はちょっと増えました。ですがほぼ横ばいです。目標はもっと高く、600人は越えたいと思います。ですがほぼ横ばいですね。

○以前、米子から来ておられましたが、交通の利便性があるからでしょうか？

**佐々所長**：今でも100人くらいいます。逆にこちらは、広島や山口に行っても、米子の数でお互い様みたいなところがあります。

### 卒業生の消息を知る方法は？

**竹下会長**：どういう形なら西部で行事案内が可能か、正直なところ同窓会員しか分からない。卒業した人は住所も電話番号も全く分からない。学習センターしか分からない。だからますます大学とは疎遠になってしまう。島根だけなのか、全国的なことなのか、そこらが学生間での情報交換は当然必要です。連絡しようと思っても、事務の窓口で断られる。

○今、新しい卒業生が出た時の情報を同窓会は貰っていますか？

**竹下会長**：名前とコースはもらっているが住所は削除されている。従って学位記授与式に欠席の卒業生は、同窓会からの情報は発信できない。

入会案内は学位記授与式の案内に同封してもらい、当日参加した人には同窓会の封筒を渡して勧誘しています。1学期は23名卒業したけど誰も入会しなかった。これは同窓会設立後初めての出来事です。今度は、卒業案内をする場合に、

その折に同窓会への加入についてもセンターから勧誘を依頼したいと考えています。

○学習センターには卒業生名簿はありますか？

**佐々所長**：ありますが、安易に出せない。大丈夫だと分かっている、基本的には本人の同意を得て出すようになってはいますが、個人情報に関しては厳しい。

**竹下会長**：現在再入学の比率は低下しています。それは追跡もやられていないし案内も積極的にされていない。学生は放送大学の学位記を貰っただけで、その後は何にもない状況です。

**佐々所長**：学生同士で教え合うしかない。

○高校生の孫が、私に対して大学行っているのは本当かと言ったので、印刷教材を見せたらすごいねと言っていた。

**佐々所長**：印刷教材は定期的に変えます。オープンに授業を見せていますから、下手なことはできないわけです。島大でもどこの大学でもやっていないと思います。

○今心理を勉強したい人が多いのではないかと。カウンセラーをやるのに資格が必要なので。

○以前山口で面接授業を受けた時に、データを作るのにパソコンがと言われて、松江のセンターへ行って教えてもらった。ExcelもWordも解からなくて、広島の事務に出せないかも知れませんが、レポートの延長をお願いしたが対応が良くて門前払いでした。

**竹下副会長**：初めての方、久しぶりに会った方と色々ありましたが、こうして情報交換できてこれが再入学につながればと思っています。

私事ですが、先般高校の同窓会があって、サポーターの名刺を渡したら、休学している看護師さんとか、市役所の人もいてもやってみたいという声が聴けたので、そういうところへも学校から出掛けられてアピールされ、いろいろ地域に入っていけたらと思います。特に西部地区など同窓会も役に立てれば出かけて行きたいと思います。皆さんからの貴重なご意見を参考にして、可能な限り益田地域に出かけ、皆さんとの交流会を開催します。(竹下靖彦・記)



## 連載

## 同窓会”先輩会員”を訪ねて③

津和野町 大庭耕助さん



今回は、県内西部の太鼓谷稲荷神社で有名な、津和野町にお住まいの大庭耕助様をお訪ねして、大学への入学動機や

学生生活での思い出、卒業後の社会活動について、竹下会長がお聞きしました。会場は益田市立図書館までお越し頂いてのインタビューとなりました。

## 放送大学との出会いは

竹下 放送大学をどこで知られましたか？

大庭 平成5年から旧日原町の教育長になり、教育に携わっていたがそのころ、生涯学習という言葉はそれまでは「社会教育」と言っていた。ちょうど生涯学習という言葉に変化するとき、その経緯の中でリカレント教育という動きがあり、戦後進められていた社会教育は、戦後の農村の青年を中心とした青年学級とか、青年学級振興法もあって進められていた。

社会の高学歴化が進み、教育でなく住民が主体的に学ぶ「学習」ということになって来たと思いますが、そのような状況の中でもう一度学習し直すりカレント教育という社会人の学習が理念的に変化する時期でした。



また、放送大学島根学習センターの再視聴室が、浜田市のいわみーるに設置されることで、私も教育行政の中で皆さんにもアピールする必要がある、自分もやってみようと思っ

ったのが入学の動機でした。

それよりベースになったのが、教育行政の中で基礎学習の必要を感じた訳です。高校を卒業した時に大学に行きたかったのですが、我が家

は農家でして父が我慢して欲しいと言ったので、断念したので何時かという気もあったが、その裏には学歴コンプレックというのもあった。教育行政をやるにあたって、教員はみな大学を出ている訳ですからね。

竹下 入学する直接の動機は何でしたか？

大庭 会議の席で社会教育を振興担当していた教育事務所の人が、市町村でも活用して欲しいとのことでしたので。

竹下 ご入学は何歳でしたか？

大庭 平成11年の4月でしたから、59歳でしたね。

竹下 早い入学でしたね。多くの方は定年後ですから。現役の方は、資格取得とかの目標がないと、忙しくて困難ですからね。最初のコースは何でしたか？

大庭 「社会と経済」コースでした。

竹下 学習されていた時、どんな思いでされていましたか？

大庭 印刷教材で勉強するのですが、若くないので読むのに時間がかかり、そしてなかなか頭に入らなくて歳を取ったと思った。

それと50年、60年の人生経験や知識も学習の中に含まれているので、それは役に立ちました。特に知識の整理とか集約の仕方とか。

私の場合は一般的なレベルアップが目的で、特にコースで何かテーマがあったということではなかったのですが、農業のことや教育行政の仕組みなどは、知識の整理になりました。

竹下 松江は遠いので単位認定試験はどうでしたか？

大庭 息子が松江に住んでいたもので、そこに泊まっていたので、ホテルではなかったが、遠距離でしたので厳しかったですね。

竹下 JRでは特急はありましたか？

大庭 ありましたね。3時間半ぐらいでした。今は少し早くなり益田からですと2時間ぐらいです。

竹下 入学時には何科目位履修されましたか？

大庭 当初は6年で卒業しようと履修計画を立

ていましたので。年間10科目位でした。

面接授業は宇部にある山口学習センターにも行きました。車で約2時間かかりましたが、3分の1位は通ったかも知れない。

**竹下** ご卒業されてから、放送大学で学んだことが役立ったことはありましたか？

**大庭** 自分の気持的に、大学の履修とはこういうことだったのかということで、それをクリアしたという自己満足ですか。自分の自信になりました。

**竹下** 現在は地域の福祉活動を教育委員会時代から引き続いて取り組まれておられますが、放送大学との係りはどうですか？いろいろな活動なされていますが、卒業後は地域中でどう活かされていますか？実は先輩を訪ねての企画も、そのような活動に取り組まれていることをご紹介しますという思いがあります。社協でのご活躍は何時頃からなされていますか？

**大庭** 社協は平成17年からですが、元々はずっと係っていましたが、中座していましたが退職後に合併してから頼まれ係わり始めました。これが社会貢献ですかね。副会長を6年、会長が3年目です。

**竹下** 同窓会は会報“たたら”を年2回発行していますが、会報編集へのご意見お聞かせいただけないでしょうか？

**大庭** 会報は作ることが大事ですね。この前も取材依頼があって、良いことではないですか？

**竹下** 現在20頁を多くの方の投稿記事で、びっしり埋めていますが、私の考えでは、多くの会員が実名と顔を出していれば必ず読んでもらえます。役員だけの報告ばかりでは魅力がありません。もう一つは、卒業されてからどうされているかを報告したいのですが？

**大庭** 単に学習したことを活用するというのではなく、トータル的に次の活動を精力的にすることだと思えます。

**竹下** 読者へのアンケートでは、いろんな意見が寄せられていて、できるだけ反映したいと思っています。会報の半分は毎回違う人を書いて貰いたいと思いますが？

**大庭** トータルで長いスパンで考えた紙面構成を加えられたらどうですか。同窓生の親睦だけではなく発行する目的が何かになるため、新しい知識的コラムを入れるとか。

**竹下** 同窓会のホームページを見られましたか？内容は如何ですか？

**大庭** 見ていますが、開いたところに見せたいものをトップに出したらどうですか。検索しないと見たいものが見えないのではなく、次に進みたくなるような工夫をされたらどうでしょうか。ところで更新はどれくらいの期間でしょうか？

**竹下** 新しい報告や案内などは、短期間に掲載しています。見出し写真は年3回を予定していて、県内各地の名所、旧跡などを紹介しています。

**竹下** 同窓会に対するご希望はありますか？

**大庭** ありませんが、できるだけ沢山の人が加わって、楽しく交流ができればよい。

役員の方が一生懸命運営されていますので、このままでいいのではないのでしょうか。

**竹下** 本日はご多用の中、益田までお出かけ下さりありがとうございました。これからもご支援の程お願いします。

※取材を終えての感想は、さすが長く行政の中軸におられた方で、お聞きするたびに論理的にお話下さり、お顔も柔和で人懐こい人柄でした。出来たら益田地域での軸になって、卒業生や学生の相談に応じて頂きたいと願っています。



益田市立図書館

## 地区会員の近況報告 (卒業後の私) ⑤

## 再入学からの学び

浜田市 逢坂かおる



私は平成27年9月に卒業しましたが、今度はゆっくりと学習を楽しみたいと思い10月に再入学をしました。

卒業し学んだことを地域の中で生かしたいと考え、ボランティア活動を思い立ちましたが、どのような活動から始めたら良いのか分からず困っていました。

そんな時に、市報に食生活改善推進員講座の受講生募集が載っており、卒業も「生活と福祉」コースでしたので、学んだことが早速役に立つと迷わず申し込みをしました。食生活改善推進員(食育アドバイザー)とは、食生活を改善し子供から高齢者まで生涯を通じた食育の推進、健康づくりの活動をします。講座は6回で、新しい仲間との出会い、講義や調理実習と健康づくりの実践を学びました。

その後、公民館で地域住民の料理教室に参加させて頂き、参加者と調理実習を行い、試食タイムではそれぞれの感想を話し、日頃馴染みのない地域の方と交流が持てて楽しかった。試食をしながら思ったのは、年齢層により食事の献立や食材の切り方、薄味の工夫が必要だと学びました。

## 今年はサポーター講座を受講

今年はさらにサポーター講座を受けています。この講座は養護学校相談支援センター主催で、様々な障がいやサポーターについて、基本的な知識を学ぶ講義と実践との二本立てとなって半年間学びます。

こちらの受講生は年齢層が幅広く、中には毎年受けている方もおられ、障害について関心が高いことが分かります。障がいと発達の実態を知りたいと思ったことがきっかけですが、講座

を通じて発達障害について身近に考える良い機会となりました。

ここでボランティア活動を行う上で学んだのは、ボランティアの4原則とは、①自主性・自発性、②社会性・連帯性、③無償性・無給性、④創造性・開拓性・先駆性です。ボランティアで大切なことは人間関係を大切にすることです。責任と継続性を持って活動すること、ボランティア活動は奉仕活動ではなく自分に何ができるかを考え、対象となる人の自立を支援し自分自身の自立も確立することで、お互いに自立し合うことがボランティア活動の精神であることを自覚しました。

放送大学で学び、卒業したことで心に余裕が生まれ、これからも興味と関心を持ちボランティア活動の輪を広げていけたらと思います。

松江は遠く、セミナー・サロンなどの行事や学生研修旅行など参加したいと思いますが、経費などの負担が大きくなかなか難しい。かなえば今後とも県西部でも面接授業やセミナー・サロン・講演会・講座の継続を考慮して頂き、できれば単位認定試験についても実施して頂ければと思っています。

## 地区会員の近況報告 (卒業後の私) ⑥

## 「卒業後の私」

江津市 永井義人



私は、平成19年3月に放送大学教養学部(社会と経済専攻)を卒業し、引き続き放送大学大学院文化科学研究科(総合文化プログラム文化情報科学群)に入学し、平成21年3月に修了しました。

私が放送大学に入学したときは30代のときで、社会人でしたが、入学しようと思った動機は資格取得のためでした。しかし、実際に学習を始めてみると、10代のときに大学で学習したときには理解できなかったことが、社会人になっ



て学習すると理解できることがわかり、面白さを感じるようになりました。

こうして私の関心は、学習から研究へと移行し、大学院において修士論文に取り組むことになりました。私は、島根県西部に住んでいるため、試験などで学習センターに行くのにも時間がかかりました。さらに、修士論文の指導責任者が島根県にもご縁のある草光俊雄先生でしたが、草光ゼミに参加するために上京することもありましたし、直接指導を担当して下さったのが、当時東京大学におられた柴宜弘先生でしたので、メールのやり取りで解決しないときには、上京して指導を受けに行くこともありました。

今思えば大変なこともありましたが、研究は、距離に関係なく取り組めるということを実感した有意義な経験でしたし、こうした経験ができたのも放送大学があったからこそと感謝しています。

### 広島市立大学大学院国際学研究科 博士後期課程に入学へ

大学院修了後、当時は放送大学に博士後期課程がなかったため、広島市立大学大学院国際学研究科の博士後期課程に入学し、平成26年3月に博士論文を完成させ、博士(国際学)の学位を取得することができました。また、幸いなことにこの博士論文を書籍として出版することもできました(『国家間対立に直面する地方自治体の国際政策—山陰地方における地方間国際交流を事例として—』国際書院、2014年)。

博士論文は修士論文とは比較にならないほど大変で広島市まで往復することも度々でしたが、放送大学での経験があったからこそ頑張れたのだと思っています。博士後期課程修了後は、学会への参加や論文の投稿などにより研究を続けています。放送大学に入学した頃には、想像もしていなかったことでしたが、研究の面白さというのは、実

際にやってみないと理解できないものだと感じています。現在では、放送大学にも博士後期課程がありますので、興味のある方は博士論文にチャレンジされては如何でしょうか。

### 地区会員の近況報告(卒業後の私) ⑦

## 「卒業後の私」

平成23年度「発達と教育」専攻卒

江津市 山縣慶子



寒くなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私が放送大学を卒業して6年が経とうとしています。今の私があるのはいろいろな人に助けられて、お陰さまで感謝が一杯だなあとおぼせて頂きます。

私は今島根県内にある保育園で働きながら保育士と幼稚園教諭I種の免許資格をめざしながら励んでいます。子供たちを安心安全に見守り、次世代に貢献する人材を育成できる環境に携われることにも感謝しています。

放送大学在学中は、西部の学習コーナーに通いながら、自宅で勉強していました。時にはくじけそうになったこともありましたが、学校の職員さんを始めご学友の方の応援があり、卒業できたと思っています。

目標を達成する喜び、やりかけたことはやり抜くという根性が自信につながり、時間をかけ、手をかけ、目をかけ、地道に自分を磨いていくことに目覚め、前進することの大切さ、急がず、休まず、時には急いで夢、目的、目標、期日に向い、これから私の人生への完成の一步としたいです。

また、今回このような卒業後の私を見つめる機会を頂き、書いたことによりまた善縁が広がってきているなあとおぼえて、誓願を新たにしています。

これからは、親孝行しこれまで学んできたことを活かし、役割、使命を果たし、社会に貢献してお役に立つ自分になれるよう、いつもありがとうございます。感謝の自分でいたいと考える毎日です。

まだ学びながらの私ですが、みなさんの仲間に加わり、自分らしく、自分のコツコツとやり抜く粘り強さで社会へ貢献、発信していきたいと思えます。皆さま、今後とも宜しくお願い致します。

\*\*\*\*\*

地域貢献活動 ①

森林保護活動への参加報告

副会長 石川直樹



平成 29 年  
11 月 11 日  
(土曜日)  
10:00 より  
松江市玉湯

参加者の皆さん 町の「花仙山」

にて、地域貢献活動の取り組みとして「さんいん環境キャンペーン森林保護活動」に島根同窓会として初めて参加をしました。

当日は、時折北風が強く吹くようなあいにくの天気でしたが、参加者全員、元気に山を登り植林をしてきました。最初は開会式ということで見晴らしのよい展望台まで上がり、そこで式がありました。

はじめに今回は8回目となるということで主催者から参加のお礼と、平成32年に開催される第71回全国植樹祭を盛り上げたいとの挨拶がありました。続いて、島根県の担当から植樹祭への協力依頼があり、さらに山の管理者である地元玉湯自治会からは花仙山の歴史や保護の実情などの紹介がありました。

放送大学からは、同窓会、学友会、センターからあわせて7名参加しました。

みなさん初めてという方ばかりでしたが、全員寒さにもめげずはじめに展望台まで上がり、その後、目的地まで下り、松の植林を無事してきました。足場はあまりよくありませんでしたが、植えた後は土を踏み固めないと、倒れてしまうと

いう指導者の方の指示のもと、しっかりと踏んで植林をしました。

集合写真では、参加者の中では唯一の幟旗を持ってしっかりと放送大学と同窓会をアピールしてきました。(11月30日山陰中央新報掲載)



植えた松の苗木

今後このような地域貢献を通じて、放送大学と同窓会の宣伝ができればと思いました。



11月30日山陰中央新報紙に掲載

\*\*\*\*\*

センターの学生支援活動から

入学説明会(松江)に同席して

理事 川上 美里



6月24日(土) 午後に島根学習センターで開催されたオープンキャンパスのお手伝いをさせて頂きました。竹下会長から「午後から応援者1名

お願いしたい」と依頼され、私自身その日に何の予定もなく軽い気持ちで受けました。当日は事前準備もせずに島根学習センターに行き、オープンキャンパスが開催されたのです。

6月24日午後の部の参加者は5名、学校教師や保育士の方々でした。それぞれ放送大学を利用して特別支援学校教諭の資格を取りたい、幼稚園免許(特例)を取りたいなどキャリアアップを目的に参加されていました。

私の職業は看護師です。看護師に関すること、科目の選択、試験勉強などはお答えすることができますが、専門外のことになると事務局の方と話してもらうしかありませんでした。もう少しネットやオンエア広報誌に目を向け、放送大学への社会の要請に応えるべくキャリアアップ支援、資格取得のためのサポート、遠隔教育体制などを知る必要がありました。

## オープンキャンパス(2学期)

### 出雲会場の支援に取り組んで

副会長 竹下 隆



今年度から新たな同窓会の取り組みとしてオープンキャンパス支援活動を10月入学生募集の説明会から始めました。初回の支援活動は、小汀理事と私との二人で7月に出雲市中央図書館で開催された説明会に参加致しました。

説明会の中では「先輩からひとこと」というコーナーで自分の体験談等を紹介して質疑応答の内容で進行でした。参加者の中には個々に目的をもって入学の意思を固めて、手続きの確認のために参加されている方もあり、最後の個別相談は熱心な質疑応答があった。

今後の取組課題として、放送大学はどのようなところ？という素朴な疑問を持った方が気軽に参加してもらえるオープンキャンパスになれば、参加者、入学者の増加につながると思います。

同窓会として、日常の地域に向けた活動の充実を図る中で、放送大学のPRを推し進めることで、少しでも興味を持ってもらった方々に入学への後押しが出来る状況を作り出す、取り組みが必要という思いを持った。

## 2学期入学説明会(浜田)の支援

副会長 琴野正義



7月8日(日)15:40より浜田市で放送大学のオープンキャンパスが開催されました。私は支援という程のことをした訳ではありませんが、放送大学に興味を持って来場さ

れた方々に学生の視線から感じたことや経験等をお話しました。具体的には授業の視聴方法、面接授業や単位認定試験の際の通学や宿泊等々です。通学に時間がかかることや宿泊については県西部特有のことなので私の拙い話でしたが真剣に聞いて頂きました。少しでも皆さんの参考になればと思いお話をしました。

オープンキャンパスの前に開催された公開講座「セザンヌの足跡を追って」は大変興味深い内容でした。この講座はもとより、放送大学自体を知らない方々も多くおられる反面学生の潜在需要は県西部でも相当あると思います。

今後も放送大学の色々な行事に積極的に参加、協力させて頂きたいと思います。

\*\*\*\*\*

### だんだんセミナー

### 「おしゃべり会」& 「作文の時間」に参加して

米子市 金田文子



足立悦男先生の昨年11月12日(日)の「おしゃべり会、作文」の時間に参加。何かにつけて乏しい私は恥ずかしながら初めて「草紅葉」という言葉を知った。

学生のTさんの紹介された数種の「俳句」からである。



一句紹介。「草々の力尽くせし紅葉かな」

紅葉大好き日本人。「憂いを含み、人の弱さ、儂きことを表現」と先生の評。なるほど。以後今まで「草紅葉」の言葉が私にヤニのようにくっついて離れない。

「ごめんなさい。今まで取り去る」事しか思っ  
てなかったから。でも尊敬している時期もある。  
「まあ！おいしそうね、よくこんなに大きくな  
れるねえ！」花盛りを抜く時「一生懸命生きてい  
るのにごめんね」と言葉を掛けることもあるし、  
何時もそう思っている。町内の清掃時でも草の  
心になって「本当だよネ」と語る人もいるし、こ  
れから声をかけようと言う笑顔の人もいる。

田口久人著『そのままいい100万いいね！』  
(ディスカヴァートウエンティワン・2011)を集め  
た176の言葉の抜粋から

私は、言葉の力を信じています。言葉一つで  
考え方は変わります。考え方が変われば見  
えるものが変わります。(中略)

言葉はまるで父母のように、友のように、恋  
人のように、先生のように、いつも私に寄り  
添い導いてくれました。ときには優しく、と  
ときには厳しく。

同書「勉強のコツ」より

わからないままにするよりも

わかる人にきてみる

いちどに勉強するよりも

毎日コツコツ勉強する

一人で頑張るよりも

みんなで頑張ればいい

誰かに八つ当たりするよりも

間違ったことを反省する

無理して応用に取り組むよりも

しっかりと基礎を身につける

目先の目標を考えるよりも

何の為に頑張るのか考える

思うような結果が出なくて

今まで勉強してきた自分を信じる

放送大学は自分スタイルで何処までも挑戦で  
きるところであり、どこまでも連れて行ってく

れる。私の運転裁き一つで「書く」なんてした事  
のない私だが「下手でもしてみる気」が出来た。

今年も皆様と楽しく過ごしていけることを願  
っています。どんな「私紅葉」ができるのかを目  
標に。どうぞよろしくお願い致します。

\*\*\*\*\*



私の書棚から ③

心と心をつなぐ  
冊子PHP



雲南市 糸原久恵

PHP 誌は“Peace and  
Happiness through Prosperity” “物心両面の  
調和ある豊かさによって平和と幸福をもたらそ  
う” という意味を持つ機関  
誌である。

ちょっと時間がありフラ  
ットスーパーや本屋に立ち  
寄った。そんな時、何気な  
く手にするのがこの本のよ  
うな気がする。



学問も心行くまで終了できず、お金儲けをし  
なければならなかった松下幸之助の人生は苦難  
そのものであったようだ。それだからこそ、こ  
のように開放的な、誰でもが執筆者になれるよ  
うな機関誌ができたのではないかと思う。

地方を歩けばその場の名産、名所等を面白く  
分かりやすく書かれた冊子、地方紙等がきれい  
に陳列されている。そんなチラシのようなもの  
を取り上げた中に、思わぬ金剛石のような言葉  
に驚く。無料できれいに印刷された一枚の紙を  
“上手に作っているなあ”と今度は美術的な目  
になって、その色彩や構成に感嘆したりする。  
そうしてその地方独特の様々なものに敬意を表  
することになるわけだけれど、どこに行っても  
手ごろな場に置いてあるのがPHP誌のような

気がする。

人の真心に触れるようなのはいつ見ても、どこであっても暖かい気持ちになれる。そういう気持ちが原動力になって、人はこの苦しみに満ちた社会を渡って行けるのだと思う。

### 私は賢人たちの出版物から学びたい

広池先生や谷口先生等教え上げればきりのない多くの賢人が出される出版物を私は一つ一つ書き連ねたい。しかしどこでも手にできるものはそう多くはない。ちょっとした時間に、多くの良きことを身につけるチャンスに浴していることに、感謝が沸き上がる。

便利な世の中である。心のあり様も至る所で教えて貰えているような気がする。そんな大切な考え方、生き方などを教えて下さっている書物や冊子、チラシなどに心からの感謝を申し述べたい気になる。

人をつないでいるものに、笑顔があると書いてあったけれど、いろいろあるのだと今更ながら見入る冊子である。

\*\*\*\*\*

## 連載 同窓会に“期待”する②

### 「知識の発表会」や 「学びを語る会」の開催を 心理と教育 藤嶋教彰



2015年4月に3年次編入学し、放送大学生3年目です。現役教員として学習と教育に勤んでいます。

半期に2・3科目のペースで放送授業を受講しているため、卒業まであと3年程かかります。卒業後は学位授与機構の制度を利用して学士（教育学）を取得します。同窓会入会まで3年期間がある私ですが、よりよい同窓会に入れることを願い、私が思う放送大学同窓会の特徴と、島根同

窓会に“期待”することを記していきます。

私は放送大学同窓会の特徴を生かす活動を期待しています。特徴として私が思いつくものうち、ここでは3つ挙げます。1つ目は知識が深い人の集合体です。複数コースを卒業し、多分野にわたって知識を深く持つ方が多くいます。2つ目は学びの動機に違いがある人の集合体です。就職・進学を目指して学んだ人だけでなく、就職先に関連する知識を学んだ人、教養を深める目的で学んだ人などがいます。3つ目は世代間のつながりを持つ人の集合体です。面接授業やセミナーでは、実に様々な年齢層の方と共に学びます。他大学と比較して世代を超えた交流が起りやすい環境にあります。実際、私もこれまで放送大学に通うことで様々な年代の方と交流し、つながりを得ることができています。

最後に、期待する活動として2つ例を記します。1つは「知識の発表会」を開くことです。人間、時間が経つと忘却してしまう知識が多く出てしまうものです。せっかく様々なコースを卒業しても、知識を忘却してしまうと教養の深みが減ってしまいます。知識を忘れないための、アウトプットの機会が欲しいです。知識の発表会では事前に1つのお題に関して、複数科目の教科書を読み、重要点をまとめます。本番では、まとめを資料にして配布し、白頭発表（松江）（配布し、白頭発表）。発表者は知識を思い出すきっかけになり、聞く人も知識が思い出せる、または新しい知識を得られます。『教養』の深化を目指すこの大学にぴったりの会と思います。

もう1つは「学びを語る会」を開くことです。人それぞれ学びの動機が違うからこそ、他人の学ぶ理由は新しい刺激や気づきを与えてくれます。学習への意欲向上につながるでしょう。多様な方々と交流を持ちやすい放送大学ならば実現しやすく、効果も期待できます。

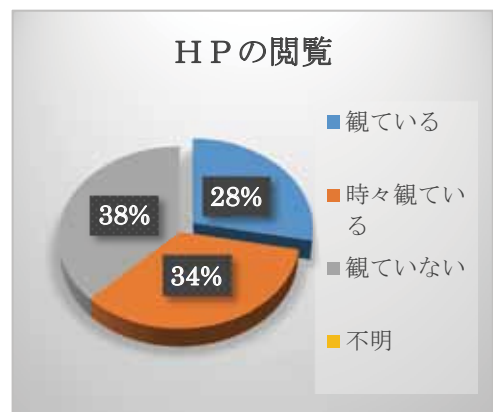
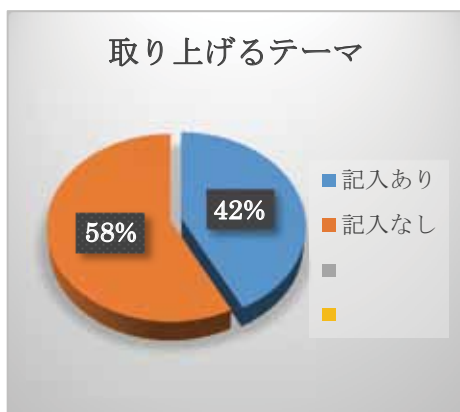
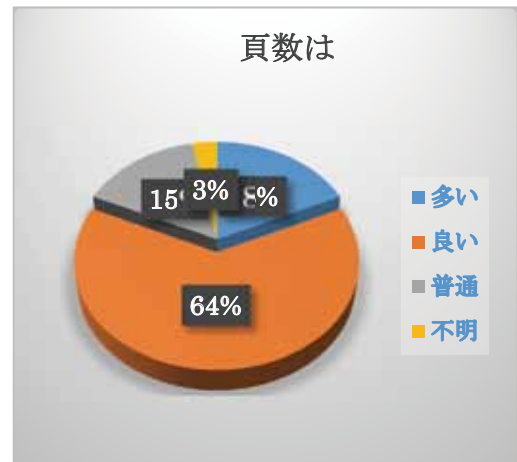
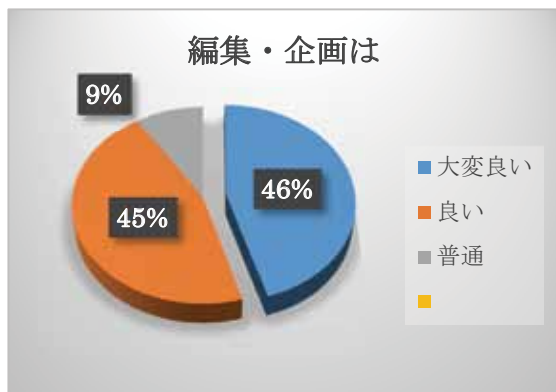
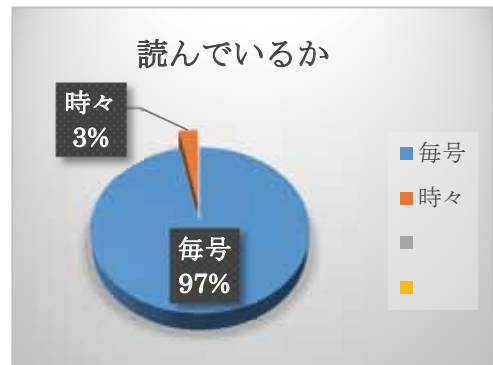
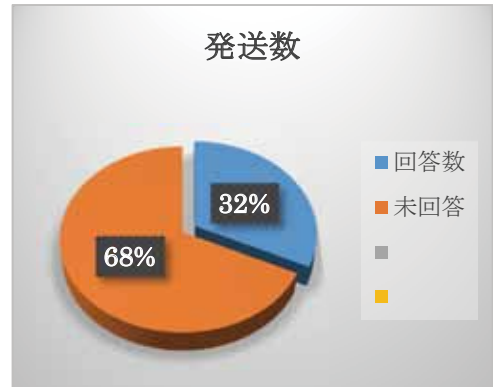
これらは公開講座や卒業研究発表会などと併催し、多数の人、特に若い人に聞いてもらった方が効果的だと思います。より繁栄して私を迎えてくれることを心より願います。

### 会報“たたら”読者アンケート結果

2013年3月同窓会設立に際し、活動の基盤として会報の年2回発行をうたい、同年7月から発行し2017年7月(第9号)発行に伴い、これまでの編集と結果について、会員の皆さんに評価をお願いするため、第1回読者アンケートを実施しました。

結果は会員103人に対し、回答者は33人で32パーセントとなりました。不特定多数者への依頼ではなく、毎号送付している同窓会員に対するアンケートであることから、回答者の低調さに広報部は失望しています。何故なら、編集と印刷、配布作業に多くの経費と役員と投稿者への編集作業量を費やしているのも係らず、会報の果たす役割に関心が乏しいのか、評価に値しないことなのか、結果は編集企画が会員の皆さん方のご期待に必ずしも応えていないものと考えています。

しかし回答者の中には、更なる編集企画に幾つかのご提言を頂いており、どのように応えられるかを含めて、広報部及び役員会にて精査を行い、今後の在り方を検討します。





島根学習センターから  
行事のご案内

- 日程が変更になる場合がありますので、事前に申し込みをお願いします。島根学習センター ☎0852-28-5500
- 学生以外の方、途中から参加の方も OK です。お問い合わせの上ご参加ください。
- セミナーは通常第2講義室（スティックビル4階）で行いますが、第1講義室（スティックビル3階）に変更になることもあります。事前にご確認ください。

**\*だんだんサロン\*\*\*\*\***

◆ 「作文の時間」 13:30～15:00 「おしゃべり会」 15:30～17:00 足立悦男 島根大学名誉教授  
1/14(日)、2/18(日)、3/11(日)

※作文の時間・おしゃべり会のどちらか片方だけでも参加できます。

**\*だんだんセミナー\*\*\*\*\***

◆ 「身近な記憶の心理」 高山 草二 客員教授  
1/13(土)、2/9(金)、3/9(金) 14:30～16:00

◆ 「生物よもやま話」 大島 朗伸 客員准教授  
1/11(木)、2月お休み、3/22(木) 15:30～17:00

◆ 「健康づくりに活かす運動生理学」 原 丈貴 客員准教授  
1/10(水) 14:00～15:30、2/20(火)、3/13(火) 14:30～16:00

◆ 「古文で作文～創作から学ぶ古典文学～」 野本 瑠美 客員准教授  
1/12(金)、2/16(金)、3/2(金) 15:00～16:30

◆ 「みんなでつくる安全な医療」 宮本 まゆみ 客員准教授  
1/31(水)、2/8(木)、3/15(木) 15:00～16:30

◆ 「英語小説を愉しむ」 宮澤 文雄 客員准教授  
1/7(日)、2/17(土)、3/17(土) 15:00～17:00



- 日程が変更になる場合がありますので、事前に申し込みをお願いします。島根学習センター ☎0852-28-5500
- 学生以外の方、一回限りの参加も OK です。お問い合わせの上ご参加ください。
- セミナーは通常第2講義室（スティックビル4階）で行いますが、第1講義室（スティックビル3階）に変更になることもあります。事前にご確認ください。

**放送大学島根学習センター公開講座**

セザンヌの足跡を追う -南仏の故郷 エクス・アン・プロヴァンス-

講師：佐々 有生（放送大学島根学習センター所長）

平成30年2月4日(日) 13:00～14:30 放送大学島根学習センター 第1講義室

平成30年2月18日(日) 13:00～15:00 出雲中央図書館

定員：各50名(事前申込み制) 申込み先:島根学習センター Tel0852-28-5500

## ～同窓会よりお知らせ～

### 1、同窓会会員継続手続きをお願いします

島根同窓会は2013年3月に設立総会を開催し、入会申込書の提出並びに会費の納入で、会員登録を完了して活動に取組み出発しました。初年度の登録者は67人の方で、入会登録から5年の期間が終了します。

つきましては、引き続き今後3年間分として3,000円の納入をご案内しますので、何卒ご協力をお願いします。継続のお願いは個別に差し上げますのでよろしくお願い致します。

その後、入会月5年目を迎えられた皆様には、順次“会員継続のお願いと会費の納付”をお願いしますので、何卒ご協力ください。同窓会活動を支えるには会費でのご協力が必須です。

### 2、同窓会用宣伝物等の作成に要す“募金”のお願い。

同窓会では設立当初から、その存在を内外に明示するため、①幟旗、②腕章の作成について、検討を重ねてきました。そして広報部会にてデザイン、配色を検討した結果、2色ずりとして放送大学の幟旗でロゴマークを背景に文字を白抜きとして、大学の幟旗は背景にイエローのため、一見すると同窓会をアピールすることができます。

今後の活用については、同窓会が主催する行事、学習センターでの各種行事に協力している同窓会の存在や、地域貢献活動における同窓会としてのアピール活動として、その都度持参して掲示をします。幟旗は5枚、腕章は10枚作成しました。

さらに現在は「同窓会旗」として、小さくても良いので作成を検討しているところです。

つきましては、皆さんに宣伝効果のために作成募金をお願いする次第です。ご協力いただける場合は以下にご送金をお願いします。

**募金目標額は50,000円を予定しています。**

①山陰合同銀行本店：店名/本店営業部/店番/001

口座番号3716171 種別/普通預金 名義人/放送大学島根同窓会

②郵貯銀行：記号15370

口座番号8940271 種別/普通預金 名義人/放送大学島根同窓会

③郵便振替口座：記号/01380-9 番号/51138 名義人/放送大学島根同窓会



\*\*\*\*\*

#### 同窓会 “新企画”

### 大学院入学を目指す“英語塾”を開設

学士卒業生、同窓会員、学生、大学院選科生、科目生の方で、次のステップとして、大学院全科生入学を目指したい方、または入学は希望しないが英語を学んでみたい方を対象とします。

平成30年4月から、学習センターと宮澤文雄客員准教授のご協力にて、大学院全科生入学を目指すための“英語塾”を毎月1回(90～120分予定)で開催します。



とかく英語は苦手とされる初心者の方も、是非参加をされてみられませんか？

なお、塾の開講日は新年度予定と調整中のため、確定次第入塾者の皆様宛に別途お知らせします。

内容は主として、過去の出題分を中心として研究計画書作成、英文法についても学びます。できる限り基礎も学びます。

つきましては、参加希望される方下記のご要望をお聞きするために、事前打ち合わせを次の日程にて開催します。ご都合の良い日とお名前を学習センター（0852-28-5500）迄お知らせ下さい。

①2月22日(木) 11:00~13:00 4階

②3月 1日(木) 11:00~13:00 4階

③3月 8日(木) 11:00~13:00 4階

\*\*\*\*\*

## ◆同窓会活動日誌◆

(2017年7月~12月)

7月08日(土) オープンキャンパス(浜田)  
13日(金) 会報“たたら”9号発送  
8月06日(土) オープンキャンパス(松江)  
19日(土) 第16回広報部会  
26日(土) 第5期第2回役員会  
9月02日(土) 第3回中部地域会員交流会  
03日(日) オープンキャンパス(松江)  
16日(土) 第5回中四国同窓会交流会  
17日(日) 同上

9月19日(火) 卒業生配布入会資料印刷  
24日(日) 1学期学位記授与式  
24日(日) 卒業を祝う会開催  
24日(日) 2学期入学者のつどい  
24日(日) 入学者の茶話会  
10月10日(火) 植林活動参加案内状発送  
11月11日(土) 玉湯町花仙山植林活動参加  
25日(土) 第17回広報部会  
26日(日) “たたら”会員取材(益田)  
26日(日) 第2回西部地域会員交流会  
12月10日(日) オープンキャンパス(出雲)  
16日(土) 第18回広報部会  
16日(土) 第5期第3回役員会  
16日(土) 忘年会(同窓会・学友会)  
17日(日) オープンキャンパス(松江)

## 平成29年度 卒業研究修士論文・発表会開催のご案内

日時 2018年2月4日(日)13:00~16:30

会場 松江市 島根学習センター 3階「第一講義室」

発表者 4人(博士論文1人、修士論文2人、卒業研究1人)

出席 ご参加は学習センターまでご連絡下さい。

## 平成29年度第2学期学位記授与式開催のご案内

日時 2018年3月31日(土)11:00~12:00

会場 松江市 島根学習センター 3階「第一講義室」

対象者 平成29年度第2学期卒業要件を満たした学生

平成29年度第2学期修士課程修了要件を満たした大学院生

※後輩たちの卒業を祝福するため、会員多数の参加をお願いします。

出席 ご参加は学習センターまでご連絡下さい。



## 平成29年度第2学期“卒業を祝う会”開催のご案内

日時 2018年3月31日(土)12:00~13:00

会場 松江市 島根学習センター 4階 「第二講義室」

対象者 平成29年度第2学期学位記を授与された学生の皆さん

平成29年度修士課程修了された大学院生

※後輩たちの卒業式を祝福するため、会員多数の参加をお願いします。

## 平成30年度第1学期“入学者のつどい”開催のご案内

日時 2018年3月31日(土)13:15~15:00

会場 松江市 島根学習センター 4階 「第二講義室」

対象者 平成30年度第1学期入学された学生の皆さん

※入学者の皆さんを共に歓迎するため、会員多数の参加をお願いします。

出席 ご参加は学習センターまでご連絡下さい。

## 第6回通常総会開催のご案内

日時 2018年4月22日(日)13:30~16:30

会場 松江市 島根学習センター 4階 「第二講義室」

議題 ①2017年度活動報告

②2017年度会計報告・監査報告

③2018年度活動方針

④2018年度予算案

講演会 公開講演会として一般公開します

講師 田邊和佳子さん(島根県消費者センター調整官)

演題 『国際化する消費者被害』

※正式なご案内は後日送付します。

## ◆編集後記◆

少し前、我が家に猫が来ました。マンチカンという洋猫です。短い前足が特徴です。色と模様から、洋猫なのに名前が和風の「ちくわ」となりました。4月に父親が亡くなり寂しい思いをしていたところだったので、あたらしい家族が増え夫婦の会話も猫を中心に盛り上がっています。

そもそも「猫」という漢字は「獸」偏に「苗」と書きますが、この成り立ちには始皇帝の秦よりも古い時代からの所説があるそうです。説の紹介は別の機会に譲りますが、心の和む話が多くあります。最近、地震や洪水など自然の力の凄さを感じさせられる現象が続けて起る一方で、事件や大相撲の話題などは人間のエゴを感じさせられることが少なくありません。年末年始は猫の話題などで穏やかに過ごしたいものです。(石川)